

東京の幹線環状街路における路線網の変遷—位置変更を中心として—

八潮市(元日本大学大学院理工学研究科) 正会員 ○那須広孝
 日本大学理工学部土木工学科 正会員 大沢昌玄
 日本大学理工学部土木工学科 フェロー 岸井隆幸

1. 研究背景と目的

8つの環状線から構成される東京の幹線環状街路の整備は、主要ネットワークが早期に完成した放射線に比して概して遅れる傾向にあった。2006年には環状8号線が全通するなど着実な整備が進み、大部分が完成しているものの、依然として未着手の状態であるものや、整備に長い時間がかかった区間が存在する。また、現在までに路線網が変化しており、これらの原因を探る上で、現在の計画が形作られるまでの過程を知ることが重要である。

そこで本研究は、位置変更を伴う路線網の変更を対象とし、過去の都市計画図を用いて具体的な変更箇所や、変更の際の現道・既存計画道路の活用有無、新設区間の従前の状況、指定を外れた区間の以後の状況等に注目して検証していくことを目的とする。

なお既存研究としては、東京の街路計画と整備の変遷を示したものはあるが¹⁾²⁾³⁾、環状道路について詳細に言及しているものはあまり見られない。

2. 研究方法

過去の都市計画図については、1889年市区改正から1967年までの11枚の地図を収録する東京都建設局『東京都都市計画道路地図復刻集』を使用する。今回はその中から東京の環状街路が位置づけられた1936年の図から現在のネットワークが確立した1964年の図までを対象に分析していく。1936年の図と1946年の図についてはその図自体の分析を行い、1960年の図と1964年の図については、都市計画決定と変更について収録している『東京都都市計画概要(資料編)1997年版』で把握した路線網の形成に係る変更状況と対応させながら分析する。

3. 戦災復興計画以前の幹線環状街路計画

現在の幹線環状街路計画が決定したのは戦災復興計画であるが、東京の幹線環状街路が環状道路として位置づけられ地図上に表記されたのは、1927年の環状6～8号線の都市計画決定後、1932年の東京市35区拡大を受けた1936年の図である。この時と現在で位置が大きく変更されている環状6号線、8号線について見る。

(1) 環状6号線

現在と違って其の一、其の二に分かれており、其の一は渋谷区猿楽町を起点とし、板橋区板橋二丁目付近に至る道路として、其の二は城東地区に位置しており、一部放射線との重複区間を含んで足立区千住仲町から江東区南砂六丁目に至る道路として位置づけられていた。戦災復興の段階では、其の一については起点付近の一部区間は環状6号から外れて旧山手通りになり、品川区から来る新環状6号線と接続している。また其の二については削除され、墨堤通り、丸八通りといった補助線街路等に転用されている。

(2) 環状8号線

練馬区南田中二丁目以北で現在よりも北寄りのルートを取り、光が丘・高島平付近を経由して、板橋区坂下二丁目に至るルートで位置づけられていた。これも現在では一部が笹目通り、高島通りと言った街路に転用されている以外は消滅している。

(3) 戦前の計画のまとめ

整備が具体化していない段階での計画だったことから、現在と位置が大きく異なっている区間も多い。しかし上記の相違点を除けば現在のネットワークと大差なく、8路線で形成されていることから、全体の街路網パターンは現計画の原型となったとも考えられる。

4. 戦災復興計画以降の幹線環状街路計画

1946年3月の戦災復興院告示第3号で決定された戦災復興計画策定後の変化を見る。

キーワード：環状道路、都市計画変更、路線網

連絡先：〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8 日本大学理工学部土木工学科 TEL&FAX 03-3259-0679

(1) 1946年～1960年の変更状況(表-1)

1950年の戦災復興計画再検討では幅員変更のみで路線網に変更は無かったが、1957年になってから変更が生じている。

表-1 1946年～1960年の変更状況まとめ

路線	変更内容	変更年	変更箇所	従前	以後	整備
3	延長	1957年	旧: 新宿区山吹町一丁目-文京区関口一丁目	—	廃止	—
			新: 新宿区山吹町一丁目-文京区関口一丁目	—	現道	—
			旧: 墨田区菊川二丁目-江東区白河二丁目	—	—	廃止
8	延長	1957年	旧: 墨田区菊川二丁目-江東区三好一丁目	—	—	—
			新: 墨田区菊川二丁目-江東区三好一丁目	—	新設	—
			旧: 北区赤羽三丁目-足立区新田二丁目	—	—	廃止
新: 北区赤羽三丁目-同岩淵町	—	新設・現道	—	○		

1960年以前の路線網の変更はこの1957年の3か所のみであり、まだ路線網の見直しが本格化した時代ではなかった。この時点では戦災復興計画策定時のネットワークを維持する方針であったためと考えられる。3箇所の旧ルートはすべて廃止され、新ルートは3箇所中2箇所が既存道路を活用している。1960年以降に見られるような既成市街地を貫く新ルートを廃し、既存道路を活かしたルートに変更するという特徴は、既にこの3箇所にも表われており、この時期以降の路線網再検討の考え方に一貫性が見られる。

(2) 1960年～1964年の変更状況(図-1、表-2)

1964年再検討では、それまでほとんど変えられることのなかった路線網に、大幅な変更が加えられた。1964年の路線変更は全部で10箇所であるが、そのうち環状1号線を除いた9箇所の旧ルートが廃止され、8箇所が既存道路を活用した新ルートに変更されている。

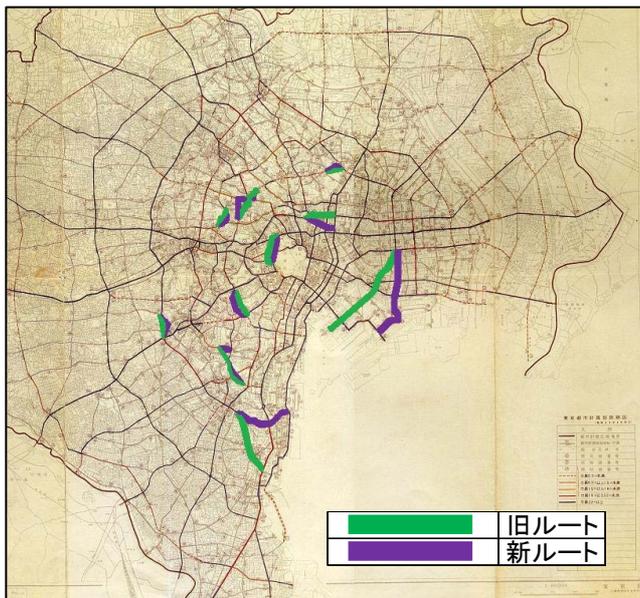


図-1 1960年～1964年までの変化

このことから、戦災復興以降の計画が既成市街地を直線状に貫く計画であったのに対し、1964年再検討では現道や既存計画道路を活用し、建て込んだ既成市街地を極力避けるように変更されていたことがわかる。

1961年、1962年、1964年の変更を比較すると、1964年が変更箇所数、規模とも大きいですが、どの変更時も既存計画道路を活用できるルートに変更するという考え方で進められていた。

表-2 1960年～1964年の変更状況まとめ

路線	変更内容	変更年	変更箇所	従前	以後	整備
1	起点・終点	1964年	旧: 千代田区麹町一丁目-同麹町二丁目	—	補助	○
			新: 千代田区麹町一丁目-同九段南二丁目	—	現道	—
2	終点・延長	1964年	旧: 千代田区麹町二丁目-同九段南二丁目	—	廃止・放射	—
			新: 文京区本郷二丁目-台東区台東一丁目	—	現道	—
3	延長	1964年	旧: 千代田区本郷二丁目-同西麻布一丁目	—	—	—
			新: 千代田区神田佐久間町二丁目	—	新設・現道	—
	延長	1961年・1962年	旧: 港区六本木六丁目-同西麻布一丁目	—	—	—
			新: 同南青山二丁目	—	新設・現道	—
	延長	1961年・1962年	旧: 新宿区弁天町一丁目-同山吹町	—	—	—
			新: 文京区小島向一丁目	—	廃止・補助	△
延長	1961年・1962年	旧: 新宿区弁天町一丁目-同稲田橋	—	—	—	
		新: 文京区小島向二丁目	—	新設・現道	—	
終点・延長	1964年	旧: 台東区谷中六丁目-同根岸二丁目	—	—	—	
		新: 台東区谷中六丁目-同根岸二丁目	—	新設	—	
終点	1964年	旧: 墨田区菊川三丁目-中央区錦七丁目	—	—	—	
		新: 墨田区菊川三丁目-江東区豊洲二丁目	—	新設・現道	—	
終点	1964年	旧: 港区白金台二丁目-品川区上大崎一丁目	—	—	—	
		新: 港区白金台二丁目-同白金六丁目	—	新設	—	
終点	1964年	旧: 新宿区富久町一丁目-同山一丁目	—	—	—	
		新: 同西早稲田二丁目	—	—	—	
延長	1964年	旧: 新宿区富久町一丁目-同富久井町	—	—	—	
		新: 同西早稲田二丁目	—	新設・現道	—	
5/1	起点・延長	1964年	旧: 港区白金六丁目-渋谷区広尾二丁目	—	—	—
			新: 渋谷区広尾五丁目-同広尾一丁目	—	現道	—
6	延長	1961年	旧: 目黒区青葉台四丁目-渋谷区神山町	—	—	—
			新: 目黒区青葉台四丁目-渋谷区松濤二丁目	—	新設・現道	—
起点・延長	1964年	旧: 品川区東大井三丁目-同大崎三丁目	—	—	—	
		新: 品川区東品川二丁目-同大崎三丁目	—	現道	—	

5. まとめ

本研究を総括すると、路線網を再検討する際、現道や既存計画にある他路線を極力活用するという考え方の一貫性が見られた。また変更された際、旧ルートの多くが廃止されていることがわかった。現況図を見る限りでは、廃止された旧ルートは建て込んだ既成市街地を通過するためこの時点で既に整備の目処が立っていなかったものと考えられる。この時期までに変更された区間は今日多くが完成しており、未完成区間も整備に向けて着実に進んでいるものがほとんどである。これは新規建設区間が短くなり、民有地の経由も少なくなったことで、用地買収や建物移転の難易度が下がったものと考えられる。一方、この時期に既に計画されていたにもかかわらず未着手で、かつ変更もされなかった区間に、現在の未整備区間が多く含まれる。この時期に変更されず現在まで当初計画のまま残っているところは、建て込んだ既成市街地で民有地の用地買収や移転補償を多数伴う地域であり、それ故に整備の難易度も高くなっているものと考えられる。

【補注】

- 1) 堀江興, 「東京の幹線道路形成に関する史的研究」, 東京工業大学学位先生論文, 1990年
- 2) 山下保博, 「東京の幹線道路整備における政策決定に関する実証的研究」, 東京大学学位申請論文, 2004年
- 3) 越沢明, 「東京都市計画物語」, 日本経済評論社, 1991年

【参考文献】

- (1) 東京都都市計画局, 都市計画概要(資料編), 平成9年
- (2) 東京都建設局, 東京都都市計画道路地図復刻集, 平成5年